

# 産学連携実績紹介フォーム

## 1. 講座の計画から実施までの情報

教育機関名 (学校名・学部学科等)	東海大学 情報通信学部	実施時期	2013 年度 (前期・後期)
対象学年・学期・人数	前期 2・3・4 年次生・春学期開講・履修者数 26 名 後期 1・2 年次生・秋学期開講・履修者数 90 名		
講座名	キャリア形成 1		
連携企業・団体	一般社団法人 神奈川県情報サービス産業協会(略称:KIA)		
支援・連携の類型	連携団体の作成テキストとハンドブックにより講座を実施(講師派遣型)		
講座の概要・特徴	<p>SEの仕事について講師の経験を踏まえて解説し、理系・文系さらには男女を問わず、IT業界を進路選択の一つとして視野に捉えて考察する場を提供する。</p> <p>講義は、協会で編纂した手引き書(SEハンドブック)を元に、担当講師が独自に作成した教材を使った授業でSEの仕事に理解を深め、さらに講師自身の経験に基づく業界の話を受講生に紹介することで、業界の現状を正しく伝える。</p>		
産学連携検討の背景	キャリア教育の一環として、ICT分野のSE業務の内容やそこで働くことの意義などを学ぶことが重要であることから、4コマ分の講義を依頼した。		
連携の狙い、目的・目標	ICT分野のSE業務の内容やそこで働くことの意義などを学ぶことは、将来のキャリア形成にとって重要であることから、キャリア教育の一環として取り入れた。		
連携にあたっての課題・懸念	SE講座のうちから4コマ分を抽出して講義を行って頂くことから、SE講座の意義を保ちつつ講義をして頂くことについて、SE講座の趣旨から外れないかどうかの疑念があったが、調整の結果、実施可能であるとのご判断を頂いた。		
講座の位置づけ 既存講座との関係	本学部はICTに関連する分野や業界に就職する学生が大半であり、SEの業務内容等に関する講義は極めて有効である。なお、既存講座との関連は特にない。		
履修前提条件	選択科目であり、履修条件等はない。全学生にできるだけ履修して欲しいことから、ガイダンス等で履修を呼びかけている。		
授業準備と実施の体制	全学生にできるだけ履修して欲しいと考えており、ガイダンス等で授業科目の狙いや内容について説明し、履修を呼びかけている。実		

	施にあたっては、高輪キャリア支援課が担当講師から事前に講義資料を入手して、当日コピーを配布している。
成績評価の方法	毎回の出席と各回の講義に対するレポートを提出させ、その評価によって点数を付ける。

講座の構成(シラバス)	単元と時間配分 (1コマ=90分で実施)	演習・実習	実施担当・役割分担
	第 2 講 SE とは	講義	KIA の講師
	第 4 講 情報システムの企画と提案	講義	KIA の講師
	第 11 講 プロジェクトマネジメント	講義	KIA の講師
	第 13 講 システム化事例紹介	講義	KIA の講師

講座ならびに演習・実習の具体的な進め方	パワーポイントを用いた講義。 教室に備え付けのプロジェクト
---------------------	----------------------------------

## 2. 講座実施後の情報

受講者の声（受講目的、修得目標）	キャリア教育科目として開講して頂いていることから、必ずしもSE講座そのものに対する回答にはならないが、「情報通信分野におけるキャリア形成」として、業界や企業・仕事理解に大きく繋がった事が次項に示した「受講者からの感想」からも伺い知ることができる。
受講者の感想（本講座で得られたもの）	<p>※2013年春学期アンケートより抜粋</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 全体の内容がとても分かりやすかったので、SE という仕事についての理解が増した。</li> <li>・ SE の仕事は社会でもとても大きな産業の一つだという事が分かった。</li> <li>・ 実体験を含んだお話だったので顧客とのやり取りやそれに付随したやりがいなど聞け、とてもためになる講義だった。</li> <li>・ SE がどのような職種なのかを把握することができた。他にもどのような職種があるのか学びたくなったので、積極的に調べていきたい。</li> <li>・ SE とプログラマとの大きな違いを知ることができた。</li> <li>・ 信頼されることがSEにとって重要だということを学んだ。</li> <li>・ 一つのシステムが出来上がるまでの詳しい工程を知ることができた。特に提案書の作成は将来の参考になった。</li> <li>・ エンジニアの心得として「好奇心と向上心を持つこと」「自身を常に客観的に見る」ことも大切だと知り、印象に残った。</li> <li>・ プロジェクトマネージャーの役割の重要性を理解した。</li> <li>・ SE を別の職種に例え、具体例を入れて説明してくれとても分かりやすかった。自分には技術力が足りないと思ったので、精進しようと思う。</li> <li>・</li> </ul> <p>※2013年秋学期アンケートより抜粋</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ この講義によって、IT 業界へのイメージがはっきりした。そして、就活も意識しやすくなった。</li> <li>・ 身近なITを感じた。</li> <li>・ 会社を選ぶメリットやデメリットが分かり、参考になった。</li> <li>・ 人間関係の重要性がわかった。</li> <li>・ プロジェクトを進める流れや、IT 企業で働く女性について理解できた。</li> <li>・ 「プロジェクト」に対して、具体的なイメージがついた。</li> <li>・ もっとしっかりと勉強したいと思った。</li> <li>・ 実現する為のプロセスや方法を一緒に考え、実行する仕事というところに興味が沸いた。</li> <li>・ 提案書の定義や手順の説明が丁寧で、とても分かりやすかった。</li> </ul>

	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ IT 技術には更なる発展を期待していきたいと思う。</li> <li>・ 一つのことだけではなく、多くの仕事に関わることができることに興味が増した。</li> </ul>
先生の評価	企業の第一線で活躍されている講師のお話は、学生にとって新鮮であると供に、自分自身の進路を考える上で非常に参考になると考える。特に、仕事の中でやりがいや喜びを感じたこと、色々と苦労したことなどは、実際の体験に裏付けされたお話しであり、教員による講義とは異なりリアリティのあるお話しである点が有意義である。
企業・団体による評価	講義で学んだ個別の概念や技術が実務の世界でどのように使われているか、各企業や講師の体験をベースにした事例を通して学ぶことに、受講生の多くは価値を見出しているといえる。 学生は全体に大人しく、真面目な授業態度で取り組んでいた。 担当の先生からは、来年度は前期に別途同じ 4 コマの実施を依頼頂いた。
今後の展望 (継続に向けた課題)	講義の中で適宜質問などを取り混ぜて頂くと、学生がより集中して受講すると思われる。 企業で働くことに対する意識を向上させ就職活動に活かせるようにアドバイスや注意事項を述べて頂くと、学生もより興味を持って受講すると思われる。

## 3. 支援企業・団体からの情報(神情協記入事項)

提供教材・コンテンツ情報	講座名称 : 大学向けSE講座 講義形式 : SE講座講師が独自に作成した教材を元にPPTで講義を行う。		
提供元	神奈川県情報サービス産業協会 (会員企業の認定講師)	費用 (標準価格)	①講座費用(別途調整) ②テキスト有償(SEハンドブック)
支援の目的・目標	SEの業務について講師の経験を踏まえて解説し、仕事内容に理解を深め、さらに講師自身の経験に基づく業界の話により、業界の現状と業界が求める人物像を受講生に伝える。 理系・文系さらには男女を問わず、IT業界を進路選択の一つとして考察いただき、受講生の多くがIT業界に進路を選択をする事を目標とする。		
具体的な支援内容または提供教材の内容	講義は、協会で編纂した手引き書(SEハンドブック)を元に、担当講師が独自に作成した教材を使用し講義を行う。 注記:SEハンドブックの詳細は別紙添付。		
講座実施における企業・団体の役割	下記の4回の講座を団体が提供し、各回の講師は会員企業より認定されたSE講座講師が実施する。 講義 : 02(SEとは) 講義 : 04(情報システムの企画と提案) 講義 : 11(プロジェクトマネジメント) 講義 : 13(特別講義、システム化事例紹介) ※2012年度は後期に上記4コマを、3限、4限の2回実施する。 あわせて8コマ実施。		
企業・団体からの推薦コメント	神情協会員企業の中からSE講座講師審査会で資格認定された講師が各回の講義を行う。 講義は、毎回違う講師(企業)がご自身の経験や実績を踏まえて講義を行うため4名(複数企業)の講師の講義を受ける事となる。 講師企業には、メーカー系、ユーザー系、独立系等の企業があり、企業規模も大企業から、中小企業さらにはベンチャー企業まで幅広い講師(企業)が担当することとなり、受講生にIT業界の多くの可能性を紹介する。 この授業には利用者側の教員も参加頂き、教育に積極的に関与して頂く。		